

Industry
Interactive
Society Environment Economy
Dialogue
Connected World
Resilience Relationship
Global SDGs IoT
Economy Industry
AI
Mobility Support
Safety Culture Manufacturing
Smart Agriculture 対話型社会
IoT Clean Energy
Dialogue Environment
Resilience Relationship
SDGs Technology
AI Society Environment Economy
Interactive Communications
Infrastructure
Dialogue
Safety Culture
Industry History
Society
Economy

吉岐・粋・な Society 5.0

市民の意欲に投資する『吉岐なみらい倶楽部』の創設
～人がつなぐ住みつづけたい吉岐の島の実現～



令和3年7月11日

一般社団法人吉岐みらい創りサイト 村部 茂

プロジェクト創出と成長の基盤

目指すべき未来社会

ビジョナリーリーダー
観察・学習・共感
シナリオプランニング

ビジネスデザイナー
ビジネスモデル
ビジネスモデルの母体
キャスティング
ファイナンス
マーケティング
ローンチプラン

ビジネス

新しい市場の創出/ニーズと顧客の発見/実証実験の試行錯誤

プロジェクトステージ

プロジェクトデザイン
テーマ設定
プロトタイピング
チームビルディング
リフレクション
ファンディング

プロジェクト

バックキャスト

中立性の高い場でネットワークを作り、フォーカスするプロジェクトコンセプトを創出する

コミュニティビルディング
ネットワーキング
マッチング
メンタリング
カタリスト

コミュニティ

多様性のあるフラットなコミュニティ
オープンイノベーションプラットフォーム

- 2019年10月に締結された協定に基づき、壱岐市に地域創生プロジェクトの開発と実践、それらを通じた人材育成を行う研究機関を設立する。



2019年9月26日
慶應義塾大学 SFC 研究所
壱岐市

壱岐市と慶應義塾大学 SFC 研究所 『地域創生に関する研究開発の連携協力協定』を締結

—壱岐市の地域創生プロジェクトを開発・実践する「壱岐未来都市研究所（仮称）^(※)」設置を推進します—

壱岐市（市長：白川博一）と慶應義塾大学 SFC 研究所（所長：田中浩也 以下、SFC 研究所）は、2019年10月1日、『地域創生に関する研究開発の連携協力協定』を締結します。

連携協力事業の第一弾として、壱岐市は、2020年4月の発足を目指して、SFC 研究所の社会イノベーション・ラボの助言・協力の下、壱岐市における「地域創生プロジェクト」の開発・実践と、壱岐市の未来に資する高度人材の育成を行う「壱岐未来都市研究所（仮称）」の設置を準備します。

壱岐未来都市研究所（仮称）では、市職員や連携する企業の社員、慶應義塾大学の大学院生・大学生、市内の学生等が研究員となり、壱岐市に新機軸を提供するテーマを設定し、地域での実学を推進します。

また、市職員や連携する企業の社員が、壱岐市の未来を先導する社会システムに関するテーマを設定し、慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科に合格した場合、慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス（以下、SFC）からの遠隔と対面での助言と指導を受けながら、壱岐市に資する研究開発に従事する予定です。加えて、壱岐市では SFC の大学院生を「地域おこし研究員」として任用することも予定しています。

^(※)「壱岐未来都市研究所（仮称）」は壱岐市が設置を予定しているものです。

➤ 壱岐なみらい倶楽部とは？

「島内で何かやりたい」という

意欲のある島民の想いを

「壱岐のために何かしたい」という島外者が

一緒になって育てる**事業創設**の場

➤ 島民の想いを島外者が支援することで持続可能な壱岐の島を実現

島内に希望する仕事がないために

若年層の島外流出が進む中で、

求められるのは、単なる雇用の場ではない、若者が島内に住みつづけたいと思うような

「やりがい・働きがい・充実感」のある事業を自ら創り出すことである。

「島内で何かやりたい」という**意欲のある島民の想いを**

「壱岐のために何かしたい」という**島外者が一緒になって育てる場を創出し、**

「やりがい・働きがい・充実感」のある事業を生み出すことで

住みつづけたい壱岐の島

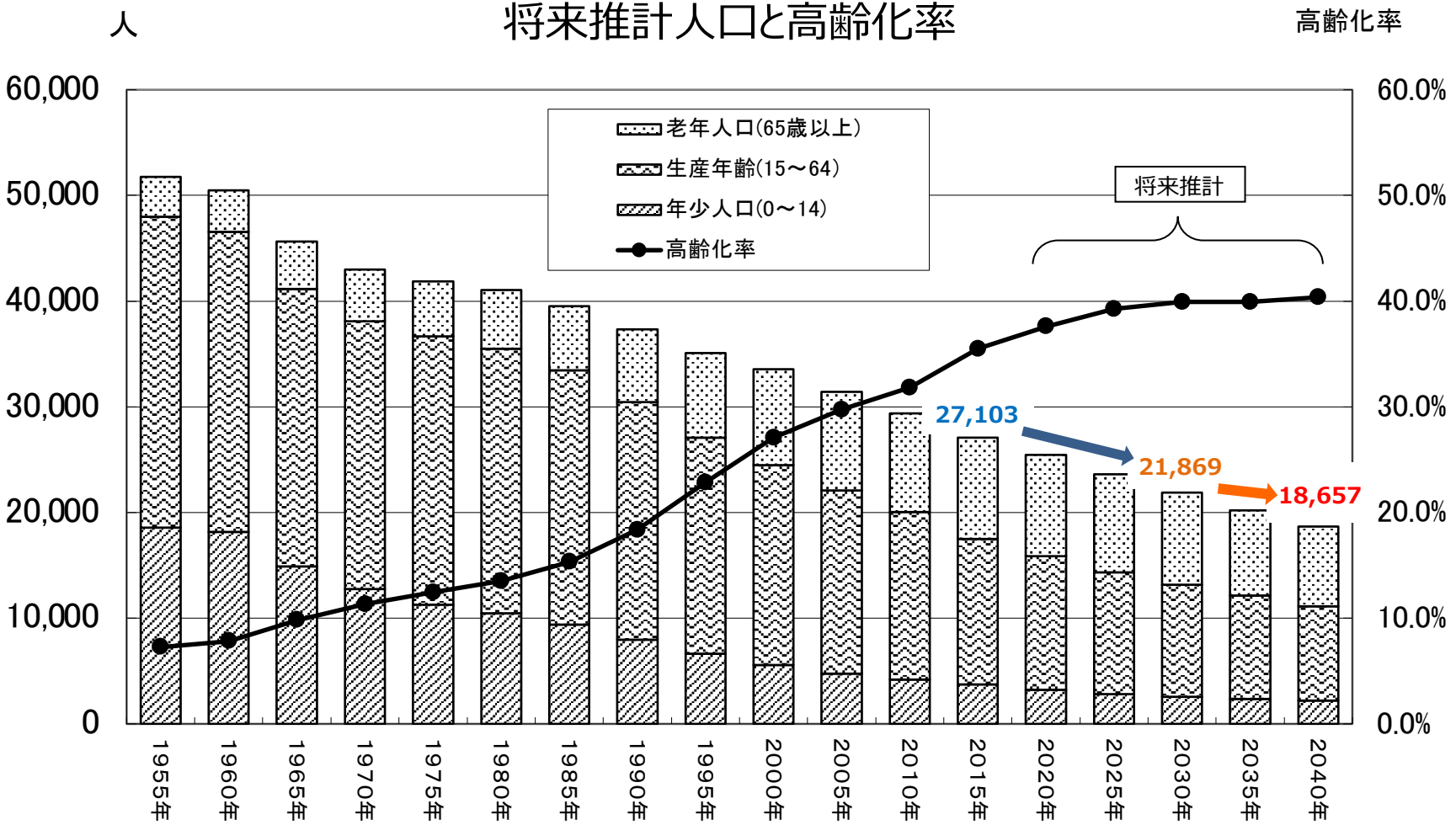
にしたい。

吉岐市の現状と

問題認識について

人口の減少

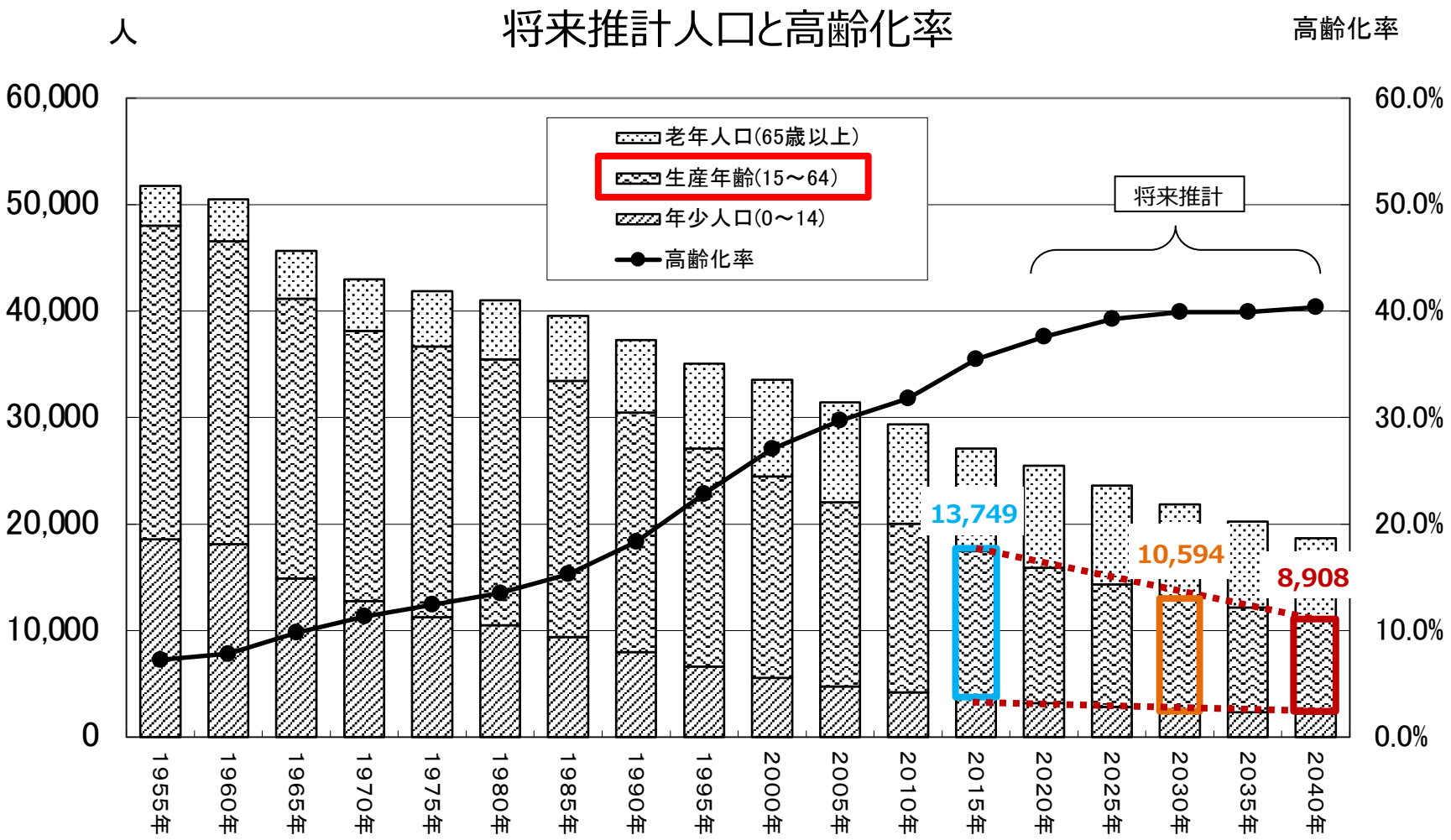
- 吉岐市の人口は**2030年には21,869人、2040年には18,657人まで減少**する。
- 2020年度（令和2年度）国勢調査人口：24,974人（速報値）



国立社会保障・人口問題研究所推計

生産年齢人口の減少

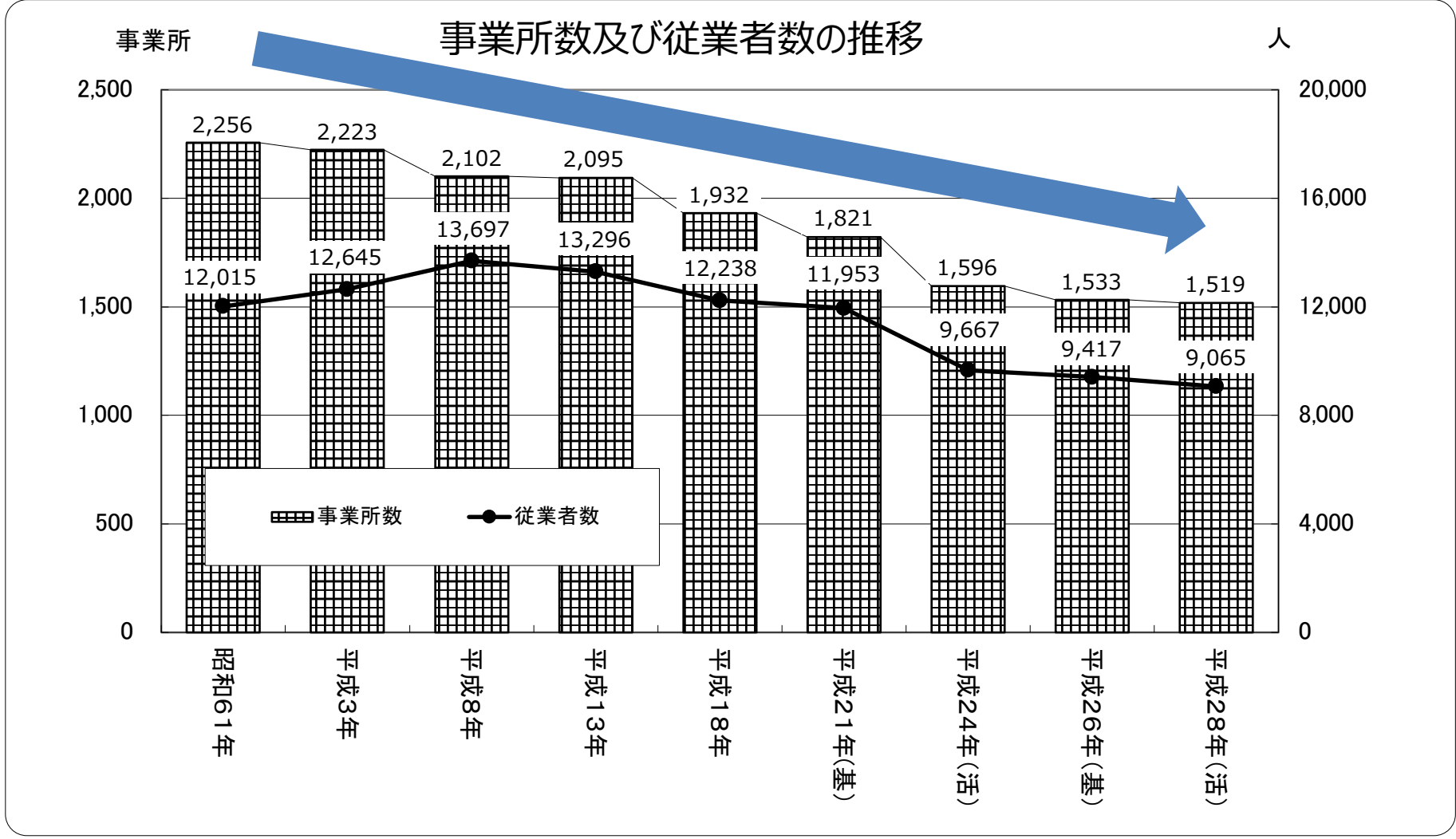
- 生産年齢人口は**2030年には約3,000人減少、2040年には約5,000人減少**する。
- 20年後には香岐の労働力は**現在の約3分の2**となり、**経済活動が維持できなくなる**。



国立社会保障・人口問題研究所推計

事業所数及び従業者数の減少

➤ 事業所数及び従業者数も年々減少している。要因としては「島内に働く場がない」→「島外へ流出」→「人口減少」→「事業所が減る」→「島内に働く場がない」の負のスパイラル。



市民アンケート結果より

- 「島内に希望する勤め先がない」ため、今後島外に移り住む人は、**1,269人**（試算値）もいる。
- 単なる雇用の場の創出ではない、やりがいのある仕事の創出のための**起業の創発**が必要。

■ やりがいのある仕事の必要性

- ・ 吉岐市在住者16歳以上へのアンケートの結果より、「今後の移住意向」を分析。

※ H27国調人口で人数を試算

→ 16歳以上人口：23,094人

① 「島外に移り住む」：21.5%（4,965人）

② ①のうち、島外に移り住む理由が**「希望する**

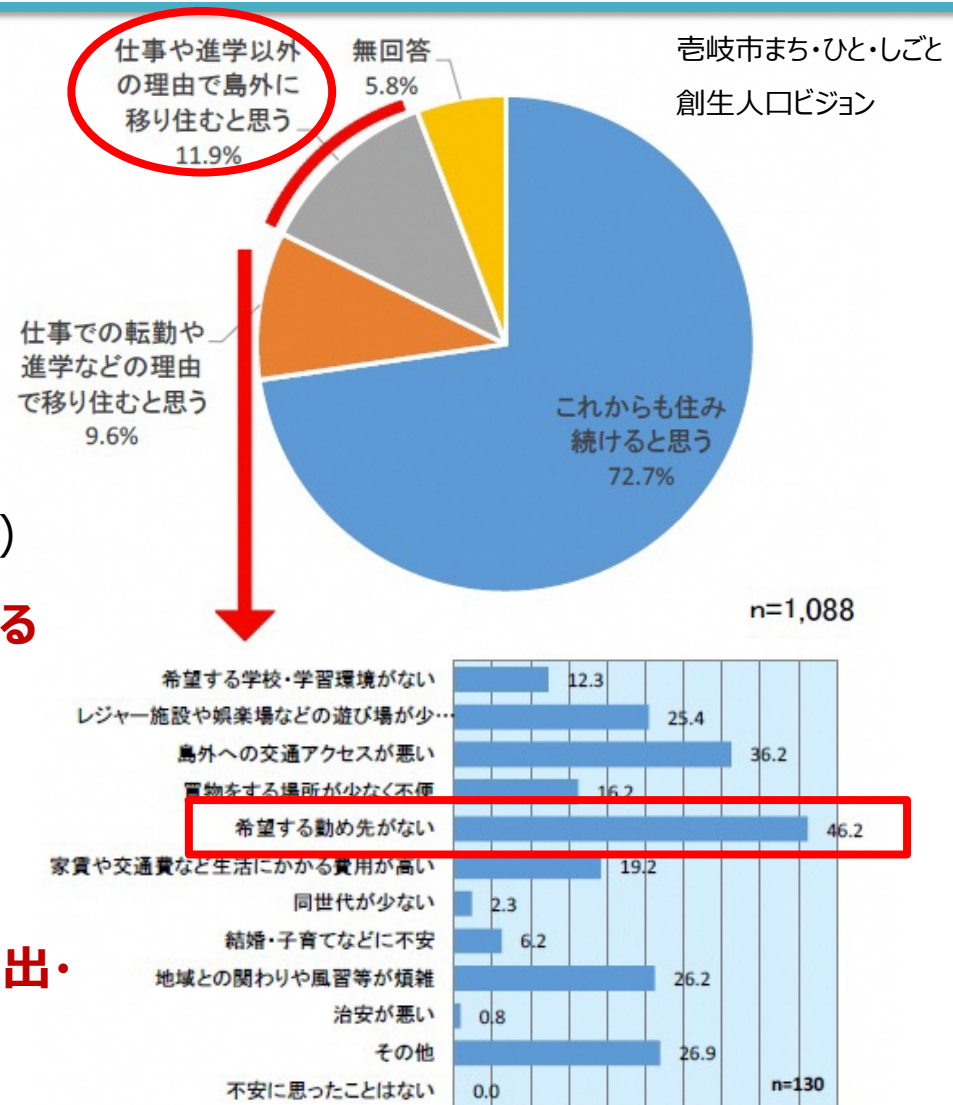
勤め先がない：46.2%（**1,269人**）



⇒ 単なる雇用の場の創出ではない、

一人一人にとって**やりがいのある仕事の創出・**

起業の創発が必要。



現状と問題認識からの考察

- 若年層の島外流出により、近い将来**島の経済活動が維持出来なくなる**。
- 求められるのは、単なる雇用の場ではなく、「**やりがい・働きがい・充実感**」のある職場。

※ 壱岐は若年層の島外流出により、近い将来島の経済活動が維持出来なくなる。【**負のスパイラル**】

「島内に希望する勤め先がない」→「若年層の島外流出」→「人口減少」
→「従業員の減少」→「事業所の減少」→「島内に希望する勤め先がない」

※ 持続可能な壱岐の島にするためには、若者が島内で働くための事業の創出が必要であり、それは単なる雇用の場ではなく、「やりがい・働きがい・充実感」が求められる働き口に変化してきている。

※ 求められる働き口 ⇒ **自らがやりたいと思う仕事 = 起業**

吉岐市の取り組みについて

第1回「SDGs未来都市・自治体SDGsモデル事業」



壱岐活き対話型社会 「壱岐（粋）なSociety5.0」



みらい創り対話会

- これまでの対話会で **2,356名が参加し、49テーマが提案**され、そのうち**35テーマが実現**。
- **対話会**という手法が**市民の声や想いを共有する場**となったことを実証できた。

「みらい創り対話会」参加者数と内訳

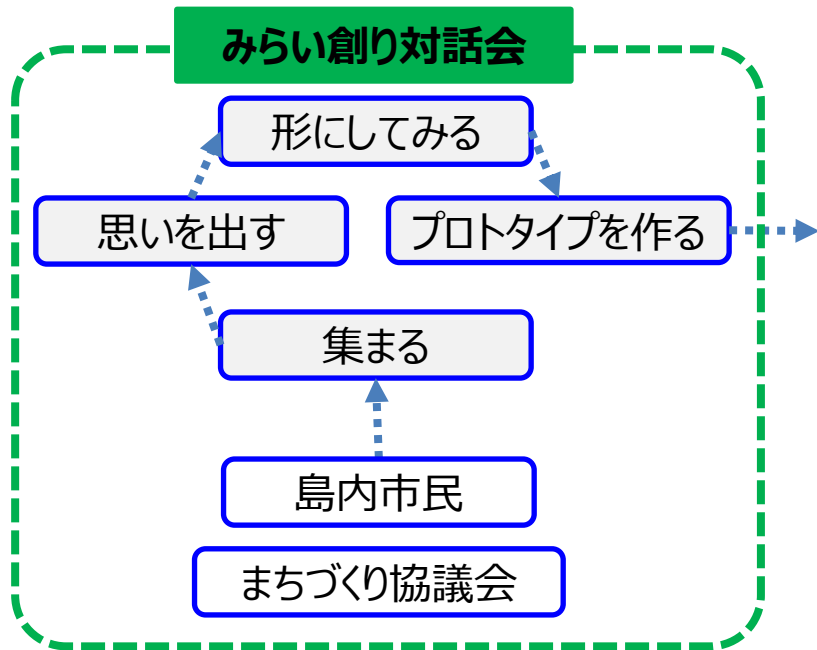
	参加者 (内訳)	テーマ数 (実現数)
第1回 2015年11月～ 2016年11月 (10回)	1,066名 (学生525名、一般541名)	9テーマ (9テーマ)
第2回 2017年7月～ 2017年12月 (5回)	271名 (学生126名、一般145名)	14テーマ (9テーマ)
第3回 2018年7月～ 2019年2月 (6回)	488名 (学生304名、一般184名)	12テーマ (8テーマ)
第4回 2019年5月～ 2020年2月 (5回)	306名 (学生104名、一般202名)	7テーマ (4テーマ)
第5回 2020年7月～ 2021年3月 (3回)	225名 (学生88名、一般137名)	7テーマ (5テーマ)



参加者数：**2,356名** テーマ数：**49テーマ (35テーマ)**

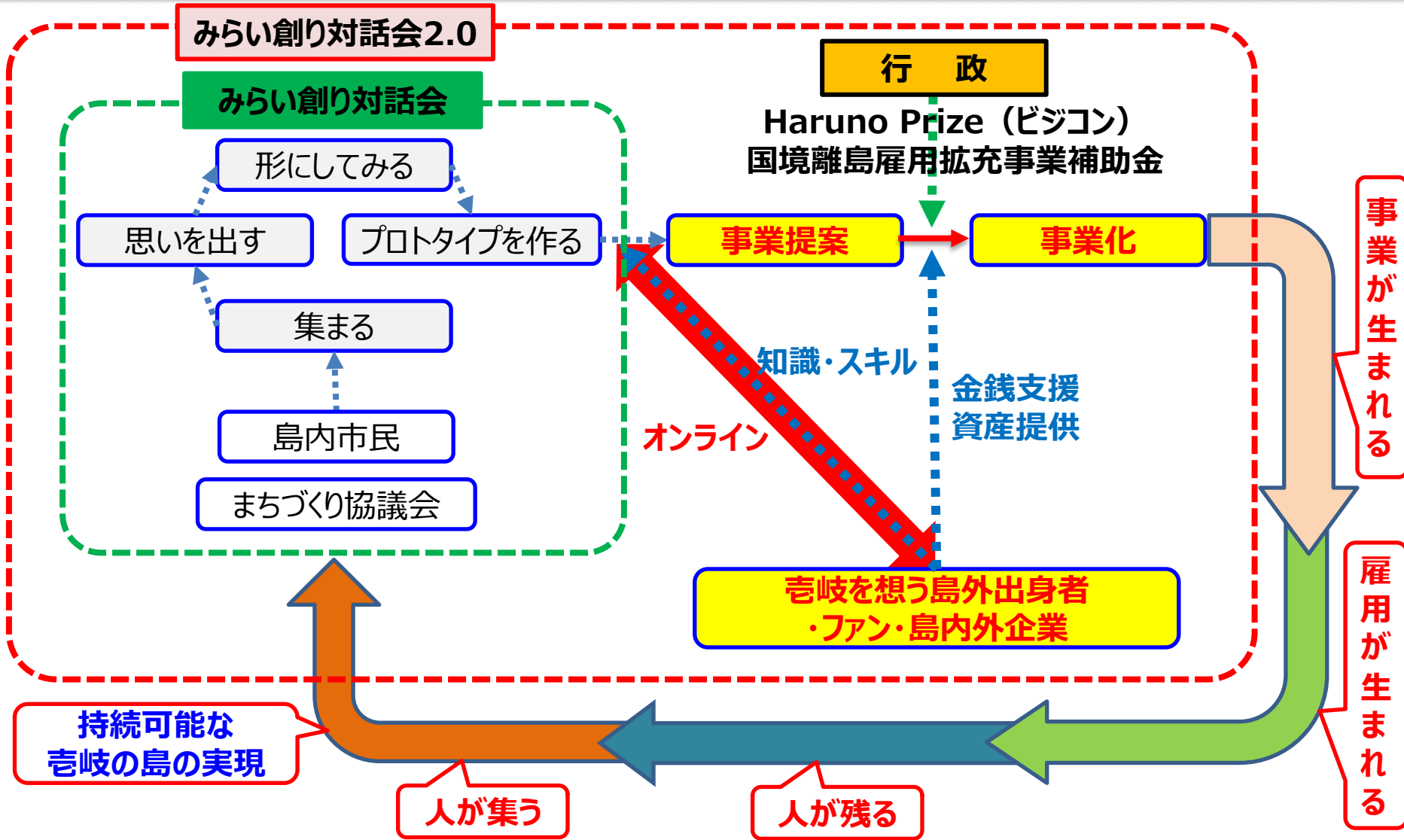
これまでのみらい創り対話会

- 対話会自体が**単年度ごとの取り組み**であり、定着した事業とはならない。
- アイデア発想及びプロトタイプ作りまではいくが、**継続的な取り組みに繋がりにくい**。



みらい創り対話会を次のステップへ

- これまで対話会という手法で培ってきたイノベーションの取り組みを**次のステージにアップ**させる。
- テーマアップされたアイデアを**新規事業**として生み落とし、**新たな雇用創出**につなげていく。



➤ 壱岐なみらい倶楽部の創設

『**住みつづけたいと思える壱岐**』に向けて

新たな事業・仕事の

“種”を探し、“苗”を育て、伴走する

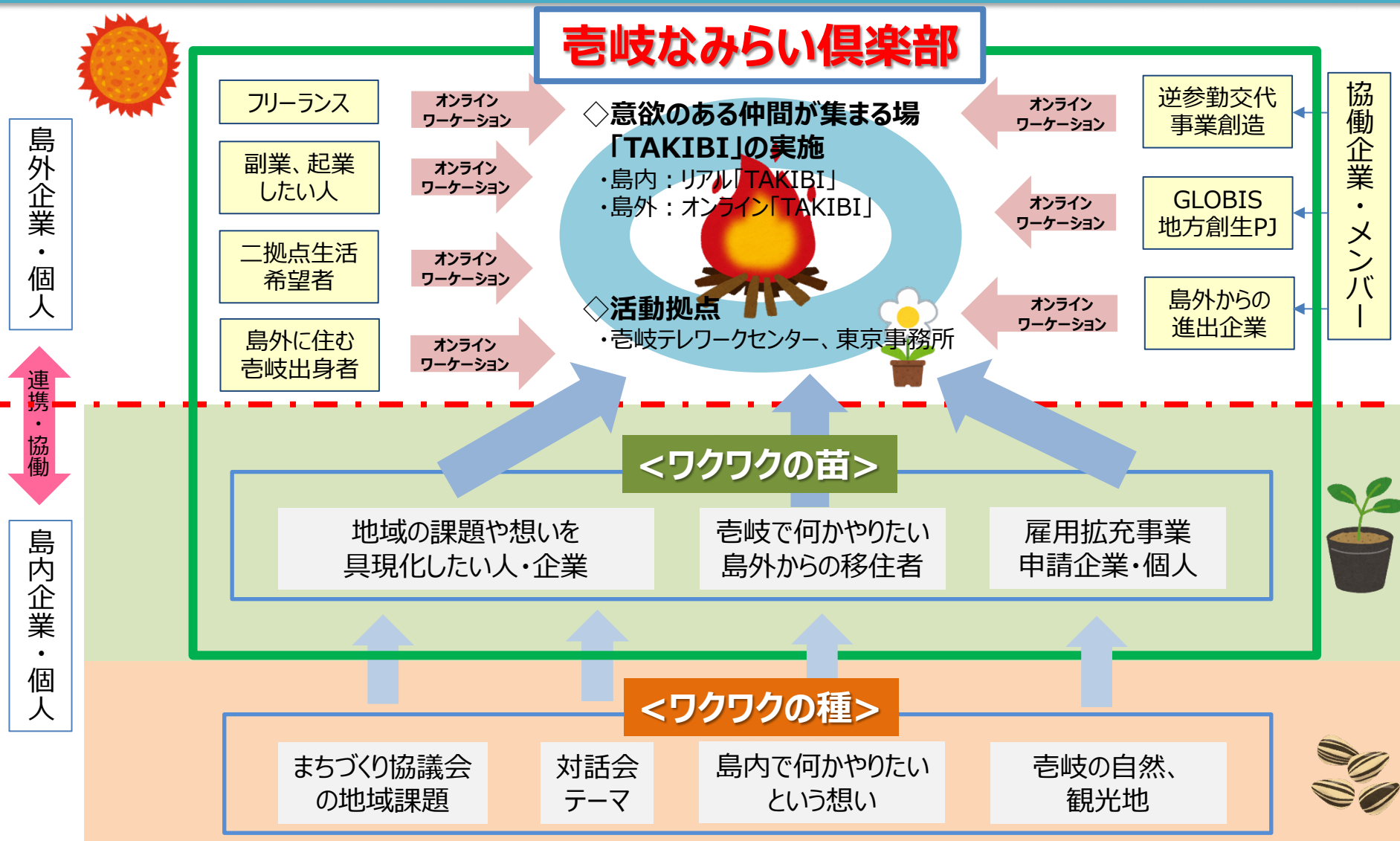
『**苗床**』

となるチーム = 機能を創る

【壱岐なみらい倶楽部】

「杵岐なみらい倶楽部」のイメージ

- 意欲のある島民の想いを島外者が一緒に育てていく共創の場
- オンラインを活用することで島内外の想いが同じ仲間が集う場



➤「意欲のある島内の人・企業（ワクワクの苗）」を発掘すること

いかに「壱岐で何かやりたい」という**意欲のある島内の人・企業（ワクワクの苗）**を発掘し、それを支える「壱岐のために何かしたい」という**島外者を巻き込めるか**が重要。

◆市民の意欲に投資する

→「何かやろう」とする**市民の意欲は重要な『資産』**であり、それを高めていくことに投資していくことが必要。しかし、人口減少及び厳しい財政状況下では、行政サービスを維持していくことは困難であり、投資の意味をお金ではなく、「仲間」や「ツール」、「機会」の提供という**『支援』**のかたちに移行していく必要がある。

➤「島内で何かやりたい」という意欲ある島民（ワクワクの苗）を集める

■ 必要な要素：コミュニティの創設

■ 具体的方策：ワクワクの苗となる人・企業とのネットワークの構築

→ワクワクの苗となる意欲のある島内に住む人・企業を集め、ネットワークに組み込む。

※島内にもアイデアはあるのに、知識や経営スキルが足りず事業化できない人・企業がいる。

◆ 補足：『種』となるものを増やしていくことが必要

→今後は島内に散らばっている「何かやりたい」という想いの『種』を集めていくことに注力していかなければならない。

※対話会やまちづくり協議会との連携を図り、島内の課題を共有し、「市民の思い」を集める。

今後、行政サービスをまちづくり協議会を含め、地域へ移行していくうえでは必要なこと。

➤ 活動スケジュール

活動日程	活動内容	実施者・関係者	活動成果目標
2021年7月11日	・意欲のある市民（ワクワクの苗）募集開始 ⇒第1回市民対話会（人脈形成）	・意欲のある市民（苗）	
	・ワクワクの苗となる人・企業とのネットワークの構築	・意欲のある市民（苗）	
	・壱岐なみらい倶楽部設立	・意欲のある市民（苗）	
2021年10月10日	・島外の支援者との連携 ⇒第2回市民対話会（テーマ宣言）	・意欲のある市民（苗） ・島外の支援者（ワーケーション参加者含む）	
	・プロジェクト活動	・意欲のある市民（苗） ・島外の支援者	
2022年2月23日	・事業提案 ⇒第3回市民対話会（テーマ発表）	・意欲のある市民（苗） ・島外の支援者	・1～3種創出

➤ 持続可能な壱岐の島を実現するために



意欲のある島民の想いを島外者が育てることにより、
「やりがい・働きがい・充実感」のある事業が生まれ、

人が残り、人が集う

持続可能な壱岐の島を実現する。

島外者が島民を支援し、

壱岐の協力者として関わり続ける。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標

11 住み続けられる
まちづくりを



17 パートナーシップで
目標を達成しよう





共感をベースにした「仲間意識」の醸成

仲間になりたい「フレンドシップ」の醸成

援助したいと「スポンサーシップ」の醸成

信頼という最高のシップの形成

お互いの知性・感性を磨き合い

自立・自創・自律に伴った本当の自由を味わえる

郷土壱岐の誕生